morimoto report Vol.52 2024・Feb.

医療法人橘会　東住吉森本病院　地域医療連携センターだより

発行者：寺柿 政和 / 事務局：地域医療連携センター・広報室

http://www.tachibana-med.or.jp/　〒546-0014 大阪市東住吉区鷹合 3 丁目 2 番 66 号 TEL:06-6606-0010（代表）Fax:06-6606-0055

【院長挨拶】

2024 年が明けるやいなや地震と飛行機事故で、 大変なスタートとなりました。4 年前は、 中国発で新型コロナウイルスによる肺炎が報告された時期でした。 よもや感染の嵐がここまで続くとは想定できませんでした。 3 年前はまだワクチンもなく強力な感染の連鎖を断つために、「人流」を制限し人との接触をできる限り避けていました。2 年前はデルタ株からオミクロン株へ移行し感染力が強くなる時期で、 3 回目のワクチン接種とマスク・手洗い・3 密回避の基本的な感染対策を進めていました。 そして 1 年前は流行の第 8 波の最中で、 ワクチン接種の励行と感染対策をしながら社会活動に制限を設けない方針になりました。

昨年 5 月に 5 類感染症になっても、 空間的・心理的な人と人との隔絶の風潮、 ソーシャル・ディスタンスや個食・黙食の名残りが人と人との繋がりを希薄にしているように感じます。 何か目に見えない欠落したものがあるように思うのは私だけでしょうか。 感染対策を取り、 個々の体調管理をしながら、 社会全体が対面での接触を取り戻していかなければいけない時期に来ているのではないかと思います。

これからこの 1 年がつつがなく過ごせる年になるようにと願うばかりです。

寺柿　政和

【日本プライマリ・ケア連合学会近畿地方会で「優秀演題」】

2023 年 11 月 26 日に開催された日本プライマリ・ケア連合学会第 36 回近畿地方会に当院の研修医・杉本和宏医師が参加しました。 救急･総合診療センターの池邉医師、加賀医師、廣橋医師指導のもと「保存的加療により経過観察できた孤発性腹腔動脈解離の一例」という演題で発表し、 優秀演題に選出されました。 杉本和宏医師からのコメント：「先生方から丁寧なご指導もいただき、 このような賞をいただけたことを大変嬉しく思います。 今後とも研修に励んでいきたいと思います。」

【JCEP 受審　認定病院・エクセレント賞】

当院は、 このたび特定非営利活動法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の審査を受け、 初期臨床研修病院の基準を満たし 4 年間の認定に加え、 エクセレント賞を頂きました。 JCEP とは、「国民に対する医療の質の改善と向上をめざすため、 臨床研修病院における研修プログラムの評価や人材育成等を行い、 公益の増進に寄与することを目的とする」第三者評価機関です。 審査では、 教育体制、教育内容、 教育評価などの項目について、 厳しい基準を満たしているかどうかが判断されます。 エクセレント賞は、 その審査においてより高い基準を満たした病院に認定される賞で、 全国でも数少ない病院のみが受賞しています。 研修医の皆さんには、 当院で充実した研修を受けていただき、 優秀な医師に成長していただきたいと願っています。

内視鏡センターについて

副院長 / 内視鏡センター長　仲川　浩一郎

2021 年 10 月に荒川先生を副センター長に迎え、内視鏡センターをオープンしてから 2 年が経過しました。地域の先生方の御紹介のおかげもあり徐々に件数も増加傾向にあり、大変感謝しております。

さて、上部内視鏡検査では、近年急激に高画質化した細径内視鏡（直径 6mm）をメイン機種として使用しており、経鼻法のみならず経口法でも苦痛の少ない検査を目指しています。また、従来からの鎮静法も引き続き継続しており、被検者と相談のうえ希望に沿う検査法を選択するようにしています。

下部内視鏡検査では、全例鎮静法にて施行しており、10mm 以下のポリープは検査時に切除しています。なお、上部・下部の同日検査も行っており、一度の鎮静で眠っている間に両検査を受けられるため大変好評を得ております。血便や便潜血陽性患者の検査依頼時においても御活用頂ければ幸いです。

いずれの検査予約も地域医療連絡室への電話連絡のみで可能であり、上部内視鏡検査でお急ぎのケースでは当日の検査もお受け致します。なお、検査以外でも早期癌に対する EMR・ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）、消化管狭窄例での拡張術・ステント留置術、イレウス管留置、胃瘻造設術などの処置例も多数施行しており、また緊急性の高い胃潰瘍・食道静脈瘤出血における止血術・静脈瘤結紮術や、総胆管結石による急性胆管炎における ERCP 関連処置などには 24 時間対応を行っております。

最後に、検査結果や治療法に関してのお問い合わせ、苦情 お叱りがございましたら、ご連絡頂けましたらメールでお返事致します。nakagawa516@gmail.com までどうぞお気軽にお願い致します。

今後も内視鏡を含めて消化器疾患の診療に尽力して参る所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

【連載 no.33】がん患者サロン再開

看護部・副部長　江口　由紀

2023 年 10 月から、対面での「がん患者サロン」を再開しました。がん患者サロンとは、がんを体験した人や、そのご家族や親しい人達がそれぞれの想いや悩みを語り合う「場所」です。同じ体験をした人だからこそ話せること、分かりあえることがあります。自由に情報交換ができる場として、がん診療連携拠点病院を中心に開催されています。当院でも、ピアサポート（当事者同士の支え）の一環で 2012 年から取り組んでおりましたが、コロナ禍で中止となり、再開のタイミングを模索しておりました。

これまでに参加された方々から、「同じ病気の人はいなかったけど、話をすることで気分転換になった」や「同じような体験をした人の話を聞けることで、少し気持ちが落ち着きました」、「実は病気になってから、家の近くの患者会やサロンを探していたのです。絶対、こういった場は必要ですよ」などのお声をいただいております。

当院のがん患者サロンでは、看護師や薬剤師、医療相談員やセラピスト等が講師を務めるミニ講演会を定期的に実施し、療養生活のヒントになることをお伝えしております。当院以外の病院におかかりの方も自由にご参加いただけます。どうぞお気軽にお越しください。

【連載 no.32】感染症の流行状況の把握 ～使えるツールでちゃちゃっと情報把握～　感染防止対策室　室長　荻田　千歌

新型コロナウイルス感染症が５類へ移行し半年が経ち、一般社会の感染対策はかなり緩和され忘年会や帰省ラッシュなど例年通りの年末が戻ってきました。日常生活が戻ってきたと同時に、この３年間おとなしかったインフルエンザの流行も戻ってきたようです。当院の救急外来でも日々インフルエンザ陽性検出数が増加しており今年度は以前のような流行も考えられ特に注意が必要です。

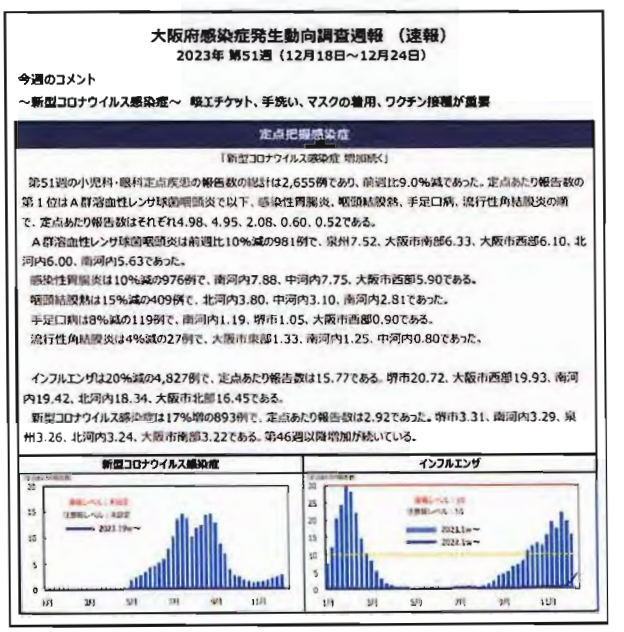
感染症の流行状況は肌感覚でなんとなく感じるものですが、やはり正確な流行状況を把握し患者や職員に感染が広がらないように配慮する必要があります。

特に冬季はインフルエンザ、ノロウイルス、COVID-19 など１例の発症でクラスターに発展してしまうことも多く、流行状況の変化に目を光らせておく必要があります。流行状況の推移により『自施設だけ流行しているのか』『世間一般的に流行しているのか』を判断することができます。世間一般で流行している場合には、院内でのマスクの着用や面会時のマスク、手指衛生など日常的な感染対策を強化する必要があります。

当院の感染防止対策室でも使用する頻度の多い感染症に関する情報収集のできるサイトをご紹介いたします。

【大阪府感染症情報センター】
〈特徴〉大阪府全体の情報把握が可能で、大阪市の状況についても東西南北に分類されて表記されており地域の感染症の流行状況が把握しやすい。

【NIID　国立感染症研究所】
〈特徴〉季節性の流行疾患だけでなく、医療関連感染に関与する耐性菌や普段あまり聞きなれない感染症について情報を調べることができる。過去の事例報告などもあり、学術的な情報も入手することができる。


大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）
2023年 第51週（12月18日～12月24日）

今週のコメント
～新型コロナウイルス感染症～　咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「新型コロナウイルス感染症 増加続く」

第51週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,655例であり、前週比9.0%減であった。定点あたり報告数の第１位はＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎で以下、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、手足口病、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.98、4.95、2.08、0.60、0.52である。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比10%減の981例で、泉州7.52、大阪市南部6.33、大阪市西部6.10、北河内6.00、南河内5.63であった。
感染性胃腸炎は10%減の976例で、南河内7.88、中河内7.75、大阪市西部5.90である。
咽頭結膜熱は15%減の409例で、北河内3.80、中河内3.10、南河内2.81であった。
手足口病は8%減の119例で、南河内1.19、堺市1.05、大阪市西部0.90である。
流行性角結膜炎は4%減の27例で、大阪市東部1.33、南河内1.25、中河内0.80であった。

インフルエンザは20%減の4,827例で、定点あたり報告数は15.77である。堺市20.72、大阪市西部19.93、南河内19.42、北河内18.34、大阪市北部16.45である。
新型コロナウイルス感染症は17%増の893例で、定点あたり報告数は2.92であった。堺市3.31、南河内3.29、泉州3.26、北河内3.24、大阪市南部3.22である。第46週以降増加が続いている。

新型コロナウイルス感染症　　インフルエンザ

【大阪府感染症情報センター　今週の週報トピックスより抜粋】

【連載 no.10】地域のいろどり　地域医療連絡室　係長　杉井　健祐

『地域のいろどり』では、院内に関わらず地域の彩り（いろどり）ある社会資源をお伝えしていきます。

■アルコール専門治療医療機関との連携

アルコール専門治療についてご存知ですか？当院は消化器内科の標榜を掲げ診療をさせて頂くと共に、救急診療を行っていることもあり、アルコール関連疾患を抱える方々と関わる機会が多い医療機関です。ただ当院には精神科がなく、身体症状が落ち着けば、アルコール依存症の専門治療の介入がなく帰宅される方も多く、入退院を繰り返される方が少なくありません。

アルコール依存症の治療では、患者本人の努力だけではなく、家族や身近な方々の協力や、患者会など当事者グループへの参加、そして私たち医療・介護・福祉の連携が重要となります。本人の依存の回復に向けて、私たち地域の医療・介護従事者が協働できるようになるために、アルコール依存症専門病院の新生会病院の小仲さん（精神保健福祉士）に「アルコール依存症の予防と治療介入」についてご講演頂きました。ぜひ右記 QR コードよりご視聴下さい。

講演動画

アルコール依存症の予防と治療介入

【連載 no.12】 For safe medical care　認知バイアスとインシデント

医療安全管理室　石津 真由美

認知バイアスとは、私たちの思考や意思決定に影響を与える心理的な傾向や歪みのことを指します。これは、情報を収集し、処理する過程で起こるもので、客観的な現実とは異なる結論に導いてしまうことがあります。人間は認知バイアスを持ってしまいます。これは防ぎようがありません。

例えば、正常性バイアスは「〇〇するはずがない」と自分の都合のいいように解釈してしまうことです。また、確証バイアスは自分が持つ信念や意見に合致する情報を重視してしまい、それに反する情報を無視する傾向を示します。これらにより、誤った結果が生じてしまいます。

インシデントの背景には認知バイアスが関与する場面が多く、その多くは再発を繰り返してしまいます。

ではどのように防げばいいのでしょうか？人間だから仕方のないことでしょうか？自分ひとりしかいない場合は、自己ダブルチェック、声出し、指さし確認。複数名が関与する時はチェックバック、この簡単な方法でインシデントは低減できます。

《医療法人橘会 東住吉森本病院 理念・基本方針・患者さんの権利》

「臨床研修病院の理念・基本方針」

研修理念

病める人の尊厳を守り、医学・医療の果たすべき社会的使命を自覚し、適切な全人的医療をチームのメンバーと協力しながら提供できる医師を目指します。

基本方針

次の１～６のような資質を備えた医療人を養成する。

1. 人間性豊かな医療人
2. 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人
3. 患者の立場に立った医療を実践する医療人
4. チーム医療のできる医療人
5. 生涯学習をする医療人
6. 地域医療支援病院としての責務を自覚し、地域医療に貢献する医療人

「病院の理念・基本方針・患者さんの権利」

病院理念

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

基本方針

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域完結型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

患者さんの権利

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

東住吉森本病院　地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
（地域医療機関・施設さま専用）
メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp
電話：0120-65-0343　FAX：0120-10-5260
【受付時間】　平　日９：00～20：00
土曜日９：00～17：00

地域医療連携センター長　大場　一輝

＊東住吉森本病院のホームページでも情報が日々更新されております。　https://www.tachibana-med.or.jp